

夏期海外語学研修報告

著者	久保田 章, 加藤 百合, 相澤 啓一, 池田 晋
雑誌名	外国語教育論集
巻	42
ページ	100-107
発行年	2020-03-31
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159900

夏期海外語学研修報告

海外語学研修英語 A 実施報告

本研修の別名は、「オックスフォード大学夏期英語研修」で、英国オックスフォード大学のカレッジ群の中でも有数のハートフォード・カレッジにおいて実施されている。今年度は、参加者募集説明会を4月25日と5月24日に開催し、その後の個別の質疑応答などを経て、最終的に13名の参加者を得ることができた。内訳は、学類生12名（学類別：人文2、比文4、社会1、教育1、生物資源2、情報メディア創成1、知識情報・図書館1；学年別：1年生1、2年生5名、3年生6名）と大学院生1名であった。最低参加者数を早めに確保でき、先方との交渉も不要だったこともあり、実施に向けて比較的順調に動き出すことができた。8月6日に筑波大で事前研修（安全研修を含む）を行い、本研修は9月1日から21日の3週間に渡って実施された。

授業については、アカデミック・ライティングやディベート、プレゼンテーションのような技能別の学習の他に、今年は英国に関する特定のテーマを取り上げた授業がやや多く設定されたことが特徴と言える。具体的には、英国の民俗、歴史、映画産業、若者文化、食文化、ビジネス、教育などの他に、シェイクスピア、不思議の国のアリス、ハリー・ポッターといった新旧の多様なテーマが扱われた。最終週には、研修の総まとめとして、英国と日本の文化についてペアでプレゼンテーションを行った。また、第1週目の週末の訪問研修はロンドン、2週目はストラットフォード・アポン・エイボンであった。

本研修では、ハードフォードの研修に合格するだけでなく、期間中の学習と生活の成果であるポートフォリオを毎週末に筑波大の担当教員に送付し、さらに研修終了後に英文のレポートを提出することが必須で、最終成績もそれら3つを総合して判定された。

この研修の主な目的は、(1) 日常的に英語が用いられる環境に身を置き、英語の総合的な運用力の増強を図ると同時に英語の使用について自信を深めること、(2) 英国の文化や社会についての知識・関心を高めると共に、異なる文化や多様な価値観に直に触れ、翻って自分のアイデンティティを再確認すること、(3) 学寮における現地の学生との共同生活やチームによるプレゼンテーションを通して共感を磨き、協力して問題解決を図る意義を認識すること、である。ポートフォリオの記述から、参加者の英語や英国に対する関心が次第に高まり、同時に英語使用への自信が深まったことが確認できた。

【本研修は日本学生支援機構（JASSO）と筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑波大生）の両方の支援を受けており、記して感謝の意を表す。】



ため息の橋の前で

(久保田 章)

令和元年度ロシア連邦サンクトペテルブルグ国立大学夏期ロシア語研修について

2019年9月4日から9月27日までの3週間強、本学の協定大学であるロシア連邦サンクトペテルブルグ国立大学の協力・支援のもと、同大学文学部附属ロシア言語文化カレッジにおいて夏期ロシア語研修（自由科目「ロシア語」3単位として開講）を実施し、本学から2名（化学類2年生1名、日本語・日本文化学類2年生1名）が研修に参加した。この夏期ロシア語研修はCEGLOC開講の授業としての認定を受け、45時間の授業時間を確保して研修期間が決められる。研修参加者は、出発前に、危機管理研修、直前研修等数回の事前研修に参加した。ロシア語学習からブランクがありロシア語運用能力が十分とは言えなかったため、Ge-NISプログラムの笹山啓特任研究員が、一学期分（10コマ）に相当するロシア語の補習授業を実施して、1. ロシア語（キリル文字）の読み書き、発音 2. 初級文法についての説明（教科書・教材を配布）3. 日常会話に必要な表現について集中的に学んでもらい、サンクトペテルブルグ大学のロシア語コースでの学習効果が期待できるよう事前準備を行った。人文社会系加藤百合教授（CEGLOC協力教員）が引率・調整を担当し、週末や放課後などを利用して、ロシアの文化や政治・経済情勢についての研修も付加された。

本年度は研修期間中である9月19日に、筑波大学が主催大学（代表）となって「日本留学フェア」（日本留学海外拠点連携推進事業）をサンクトペテルブルグにおいて開催し、本学からも松下聖助教、本学Ge-NISプログラム協力教員であるモスクワ市立教育大学准教授ミソチコ・グリゴリー先生、国際室職員の方々が準備運営を担った。2名の研修生もロシア語授業の合間をみて同フェアの手伝いを行うとともにロシア人学生（留学経験者、留学希望者）と交流する機会となった。研修生たちはそれぞれ、サンクトペテルブルグ国立大学の斡旋によりロシア人家庭でホームステイし、生きたロシア語とロシア人の実生活を体験した。ロシア語だけでコミュニケーションをとった家庭にあって、ホストファミリーと毎日会話して意思疎通したいというのはロシア語学習のさらなる強い動機となった。

到着翌日に大学で手続きを終了したが、研修生たちが入ることになったクラスは9月9日（月）が新学期開講となったため、先に在ペテルブルグ日本総領事館表敬等の文化研修を行った。本研修に伴う文化研修には、交換留学でペテルブルグに滞在中の2名（国際総合学類3年生1名、2年生1名）も参加した。大学では、文法、会話、発音、読解の各科目についてレベル別の小グループで授業を受けた。いずれも適正な授業を受けてロシア語力を大きく伸ばすことができた。3週間は短期ではあるが海外語学研修の効果は目に見えるものであった。

授業外に組んで実施した研修には次のものがあった。

1. 日本総領事館表敬および領事による特別講義（9月5日）

領事からは、本研修日程の開始にあたって、ペテルブルグにおける生活についての貴重なお話をうかがった。また副領事から危機管理のブリーフィングを行って

いただいた。

2. 日本センター訪問および所長による特別講義（9月11日）

ペテルブルグの産業について、また日本人の活動状況について、スライド等も利用して特別講義をしていただき、そのあとディスカッションを行った。法政大学からの短期留学（3か月）で到着した学生たちと合同。

3. 日本語学習者との交流会（9月14日）

日本センターでは毎週水曜、土曜に日本語教室が行われておりその生徒は日系企業に勤務するロシア人が多数を占める。授業に参加し、グループに分かれて会話して交流した。

4. そのほかは各自見学を行っていった。日本語学習者や、筑波大学留学経験者が案内して郊外や市内を案内してくれる機会も多くあり、互いによく助け合って行動し、危険もなく大学での授業以外の時間も充実したものとなった。

週末には郊外ペテルゴフに水中翼船で訪れるなど、ステイ先の協力も得て行動範囲も広がった。

帰国後10月30日（水）、キルギスでの夏期語学研修受講生と合同で帰国報告会を行った。また、提出された報告レポートも充実したもので、参加学生たちが大きな刺激を得て今後のロシア語学習への強い動機を得たことがうかがえた。

* 「はばたけ筑大生」によるご支援をいただきありがとうございました。
（文責 加藤百合）



バイロイト大学夏期講習について

本学協定校であるバイロイト大学での夏期講習は、2019年度も8月6日～30日にかけて開催され、学類生9名、院生1名の計10名が参加した。昨年に引き続き、今年も定員10名を超える希望者が集まるなど、とりわけドイツ留学に関心のある学生たちにとって留学準備に適した学習プログラムとして、すっかり定着したようだ。実際、今年の参加者のうち半数は、夏期講習終了後に引き続きドイツに滞在して交流校での留学を開始しているし、残りの半数の多くも、来年度以降のドイツ留学を目指し準備をしている。なお、所定のプログラムをこなした参加者には、CEGLOCの「海外語学研修ドイツ語」として単位(3単位)が与えられる。

授業は能力別クラス分けテストの結果に応じて編成され、段階に応じてドイツ語の適切な語学運用能力および異文化理解能力を高めることを目的としている。具体的な授業内容は各クラス担当教員によって異なるが、基本的には午前中にドイツ語の基礎文法、ドイツ社会についての講義演習を行った後、午後にコミュニケーション能力向上のための実践的演習が組み込まれている。講習参加後に提出してもらった感想文には、いずれの学生からも講習に参加して良かった、有意義であったといった声が寄せられており、本講習が満足度の高い充実の内容であったことが伺える。講習の具体的な内容や参加の意義に関し、感想の一部を以下に抜粋するので、学生たちの生の声をご覧いただきたい。(感想文の全文は<http://www.germanistik.jp/austausch/2019bayreuth.pdf>に掲載。)

- ・ 今回の研修は、再度長期で渡航することを考えると、航空代などでコストは余計にかかりましたが、それに値するようないか月であったと私は思います。ドイツの魅力を感じ、学習のモチベーションも高められたことで、長期留学をいかに充実したものにするか、よく考えられるようになりました。もし参加していなかったら、ただぼーっと留学して終わっていたかもしれない、と考えると、この一か月は私にとってとても重要でした。本研修は、そのまま長期留学に行くためだけではなく、長期留学を検討するのにもとても良い機会になります。
- ・ 色々な国から人が集まっているため、今まであったことのないような国の人と話をする機会を作ることができた。中でも、私は台湾の方と仲良くなり、最終日には一緒に夕飯を食べ再会を誓うような人もできた。多くの外国の方と交流したいという意欲のある人にはうってつけだろう。その際に、ドイツ語または英語で話しをするため、ある程度の語学力を持っていることは必要不可欠であると感じた。特に私は、相手の言っていることがわかっていてもスピーキング力の不足からうまく自分の考えを伝えられないということが度々あり、自分の無力さを感じた。このようなことから、自分の語学力を見つめ直し、意識を高める良い機会になったと感じた。

- ・授業では、いくつかのテーマ（ドイツとは？、環境保護、ドイツの芸術家など）に合わせて文法を学んだ。文法そのものはそこまで難しくなかったが、それを使って与えられたテーマについて話し合うことはハードだった。クラスメイトが発言するなかで、何も言えないこともあり、非常に悔しい思いをした。日本にいた間に、多少なりとも会話の練習をしておくべきだったと反省している。しかし、どんなに拙いドイツ語でも、先生がしっかりと聞いてくれたおかげで、少しずつ発言できるようになった。
- ・1か月という期間の短さの割に費用がかかることから、申し込み前は迷いもありましたが、このプログラムを終えた今、参加できて良かったと心の底から思っています。もちろんその理由の一つには、語学力が上がったということがあります。友達との会話をはじめ、基本的には一日中ドイツ語に触れているので、ドイツ語で考える癖をつけるためにも非常に良い環境でした。また、私は TestDaF というドイツ語の資格試験の対策クラスにも参加したので、テストに向けてよい準備もできました。しかし参加して良かった点はそれだけではありません。このプログラムには世界各国から学生が集まっているため、一緒に学ぶ中で彼らと仲を深めることができ、たくさんの刺激を受けました。そして私には帰国後もお互いに連絡を取り合っている親友もできました。ドイツ語やドイツの文化を知ることはもちろんのこと、他の様々な国の言語や文化も知り、興味を持つきっかけにもなり、いい意味で予想を裏切られる、とても充実した濃い一か月を過ごすことができたと思っています。
- ・クラスは午前中の文法と午後の会話に分かれていて A2 のクラスに入れられたのだが、当然授業はほとんどドイツ語で進んでいった。教わる内容こそすでに知っているものだったが、説明が理解できなかったので止むを得ず1つクラスを下げてしまった。下げたクラスは得ることも多かったが少し簡単だったので下げなければ良かったと後悔しました。午後と両方下げてしまっただけでは来た意味がないので、午後のクラスだけ下げずにと先生にお願いしたところ受け入れてくれ、とてもありがたかったです。当然会話のクラスも授業は全部ドイツ語で進むのですが、日常会話をメインに勉強したので文法などを教わるのとは違い、感覚的に相手の話していることを理解することができました。それについてこの授業を受け、日本で外国語を学ぶことの限界についても感じました。
- ・今回2度目の留学でしたが、前回の留学とは異なる経験をし、学び、考えさせられました。最も印象に残っているのは、日本で気づかないうちに作り上げた、外国人（他人）に対する誤った固定概念と偏見です。これらを克服するためには、相手との直接のコミュニケーションが大切であると、今回の留学で再認識させられました。私は引き続き、留学を続けるので、ドイツ語の更なる習得を目指し、視野を広げ、様々な価値観のある人との出会いを大切に、自分の中で作り上げた誤った固定概念と偏見を克服することを心掛けたいと思います。

バイロイト大学夏期講習は、講習終了後に3単位が付与されることに加え、「筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）」による助成を受けて参加者全員に奨学金が支給されており、学生にとっては参加しやすく恵まれたプログラムと言える。残念ながらバイロイト大学の都合で、2020年度は定員が5名に半減してしまったが、1月の時点で既に多くの希望者から参加者が選考されているので、運良く選ばれた学生にとっては引きつづき有意義な夏期講習が待っていることだろう。なお、ドイツではほぼ全ての大学が多彩な夏期講習を提供しており、自分の語学力や期間、専門分野や関心に応じて選り取り見取りで選ぶことができるので、残念ながらバイロイトの選に漏れたり、これからドイツ語圏での夏期講習に申し込みたいと考える学生のみなさんは、ドイツ学術交流会（DAAD）の以下のサイトを参考に、他に筑波大生があまりいない夏期講習に武者修行に出かけてみませんか？

人気のある大学は、例年5月頃には定員が埋まっていくようです。

<https://www2.daad.de/deutschland/studienangebote/sommerkurse/de/>

（文責：相澤 啓一）

令和元年度中国語夏季短期研修実施報告

令和元年度の中国語夏季短期研修は中国・湖南大学において次頁の日程表の通り実施された。参加者は計3名、内訳は人文学類1名、国際総合学類2名であった。

規定の最低催行人数5名には達しなかったが、担当者間での協議の結果、3名でも研修を実施できることとなった。少人数であったにもかかわらず、例年と同等の充実した授業や課外活動を手配してくれており、参加者にとって最高の学習環境を提供していただいた。

研修期間中は大きなトラブルも起こらず、健康かつ安全にプログラムを消化することができた。最終日に関東地方に大型台風が襲来し、搭乗予定の便が欠航になるという事態に見舞われたが、湖南大学の迅速な対応により、混乱なく宿泊の延長や搭乗便の変更等の手続きをおこなうことができ、事なきを得た。

なお、本研修では今年度も「筑波大学海外留学支援事業（はばたけ！筑大生）」による助成を受けることができ、参加者にとっては大きな助けとなった。

関係の皆様には改めてお礼を申し上げます次第です。

<令和元年度中国語夏季短期研修>

研修先 : 湖南大学（湖南省長沙市岳麓山）

参加費用 : 約30万円

令和元年度中国語夏季短期研修日程表

8月22日(木)	羽田発10:45→長沙着21:45 宿泊:通程麓山大酒店
8月23日(金)	8:00 記念写真(岳麓書院前)
	8:20 開講式(外国語学院二階201会議室)
	9:15 ①～③基礎中国語(～11:50)
	12:00 歓迎パーティ(集賢賓館)
	14:30 ④～⑤会話／⑥中国文化(歌曲)
8月24日(土)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化(料理:餃子)
8月25日(日)	岳麓書院見学 及び 湖南省博物館・長沙市内見学
8月26日(月)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化(歌曲)
8月27日(火)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化(料理:楊裕興ラーメン)
8月28日(水)	岳陽楼見学
8月29日(木)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化(舞踊)
8月30日(金)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化(料理:お粥)
8月31日(土)	ホームビジット
9月1日(日)	①～③基礎中国語／④～⑤会話／⑥中国文化(書道)
9月2日(月)	①～③基礎中国語／④～⑤聴解／⑥中国文化(料理:伝統長沙点心)
9月3日(水)	①～③基礎中国語／午後 総合復習
9月4日(火)	午前 09:00～11:00試験
	午後 12:00から歓送パーティ
9月5日(木)	研修旅行:湘西鳳凰(2泊3日)
9月6日(金)	湘西鳳凰古城
9月7日(土)	湘西鳳凰古城
	午後:長沙着
9月8日(日)	長沙発9:10→成田着19:45(台風のため欠航) ※翌日の同便にて帰国

(文責:池田 晋)